平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- Ⅱ マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- Ⅲ スポーツを通じたインクルーシブな社会(共生社会)の構築
- Ⅳ 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- Ⅴ スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 宮城県多賀城市 】

1実践テーマ	
2実施対象者	多賀城市立天真小学校
	3学年児童:59名
	4学年児童:63名
3展開の形式	(1) 学校における活動
	① 教科名 (総合的な学習の時間, 体育 計6時間)
	② 行事名 (3年: 盲導犬ユーザーとの交流会
	4年: キャップハンディ体験
	3・4年:シッティングバレーボール体験・交流会)
	③ その他 ()
	(2) 地域における活動
	① イベント名()
	② その他 ()
4 目標	○オリンピック・パラリンピックの歴史や様々な取組について知り、
(ねらい)	2020 年東京オリンピック開催にへの興味・関心を高める。
	○盲導犬や視覚障害,身体障害に関する学習や体験活動を通じ,障害の
	ある方への理解を深める。
5 取組内容	(1) オリンピック・パラリンピックに関する学習(2時間)
	① web ページ "日本オリンピック委員会", "東京都オリンピック・
	パラリンピック教育 (東京都教育委員会)"を活用したオリンピック・パラリンピックの歴史、2020年東京オリンピックに向け
	ク・ハフワンとサンの歴史, としとし年来ポオリンとサンに同け
	② " I 'm possible"を活用したオリンピック・パラリンピック
	に関する歴史や起源、用具やルールの工夫等の学習
	「パラリンピックスポーツについて物はう」WS. - 単 単 多 名
	#集策2020年7ンピックア・バラリンピック機能に向けて、バラリンピック比ついて、、 もと称じくなうう。. 0-1591とピック 2/35 - 0-1591とピック 2/35 - 0-1591とピックスイスタ そのの
	7-8 7-8 7-8 7-8 7-8 7-8 7-8 7-8 7-8 7-8
	74.
	9 # # # # # # # # # # # # # # # # # # #
	0 RLC
	で参加が書きて、初かて知ったとを参与されませつ>> のグランピンスカーアについて書き入えとを通じましましましましましましましましましましましましましましましましましましまし
	図1 作成・活用したワークシート

(2) 盲導犬や視覚障害等に関する学習や体験活動(2時間)

①3学年: 盲導犬協会による視覚障害に関する講話及び盲導犬 ふれあい体験





図2・3 盲導犬の学習を受ける3学年児童

②4学年: 社会福祉協議会による身体障害に関する講話及び 車いす・白杖体験





図4・5 白杖体験や支援体験をする4学年児童

(3) スポーツ選手との交流・体験 [1/17(木)]

(学年毎に実施:体育:1時間)

[講師:宮城県シッティングバレーボールチーム「第二塩化リゾチ

ーム」より4名]

[佐竹 香氏 永井 恵子氏 熊谷 明子氏 坂口 哲太氏]









図6~9 交流・体験の様子

	 4.振り返り(総合: 1時間) (1)オリンピック,パラリンピックの目的や精神,選手の努力に触れ,東京 2020大会や今後の体育の学習,行事等へどのように取り組むかについて考える。 (2)筑波大学より依頼された事後アンケート(オリンピック・パラリンピックに関する意識調査)を実施する。
6 主な成果	〇盲導犬についての学習(3年)や、視覚障害、身体障害に関する学習や体験活動(4年)等、他の総合的な学習と関連させたことで、障害のある方への理解やパラリンピックスポーツへの意識の涵養を図ることができた。 〇これまで見たり体験したりしたことのないスポーツについて、現役の選手を招へいし、実際にプレーする様子を見たり、選手と一緒にプレーしたりする交流や体験を行ったことで、直接的な体験ができた。
7実践において 工夫した点 (事業の特色)	〇本校ではこれまで、中学年の総合的な学習の時間の福祉教育として、 3学年では盲導犬と視覚障害に関する学習、4学年では視覚障害や身体障害に関する学習を行ってきた。そこからの発展として、障害のある方でもできるパラリンピックスポーツについての学習を行いたいと考えた。そこで、必要物品が少なく、ゲーム性や1チームの人数など、学校体育での実施に適しているシッティングバレーボールを取り挙げることとした。福祉教育と関連させることで、障害のある方が楽しく気持ちよく参加できるようにするルールや用具の工夫等についても実体験を持って考えさせることができた。
8主な課題等	 ⟨スポーツ選手との交流・体験活動について⟩ ●子どもたちの感想や発言から、交流・体験は 1 時間では短いようであった。 ●子どもたちの体験や運動の量に差があった。 →講師と担当者で検討し、選手によるデモンストレーションや準備運動、紅白戦などを行ったが、時程や進行の流れ、コートの面数、ボールの個数等を改めて検討し、子どもたち 1 人 1 人に充実した体験ができるようにしたい。
9来年度以降の 実施予定	・3 学年の盲導犬に関する学習、4 学年の視覚障害等の学習は継続して実施する。・パラリンピックスポーツの学習は、次年度の学年に引き継ぎ、必要に応じて実施する。